

## 令和7年度第2回宇部市環境審議会議事録

日時：令和8年2月9日(月) 13時30分～15時00分

場所：宇部市役所市民交流棟 2階 会議室

### 1 報告事項（事務局報告）

- (1) 令和7年度刊「宇部市の環境」について
- (2) 環境事故発生及び事前協議受理の推移について

### 2 報告事項（環境事故等に関する報告）

- (1) 高純度安水工場におけるアンモニア排ガスの漏洩事故について

### 3 出席者（敬称略）

<委員>

市民：加藤泰生、熊毛千恵

学識経験者：樋口隆哉、三浦克弘、柳由貴子、山本浩一

企業代表者：佐藤敬二、原本充

民間団体：竹重真由美、殿河内誠

<宇部市>

市民環境部：床本部長、上田次長

環境政策課：田辺課長、西岡副課長、岡係長、河野係長、係員2名

### 4 議事概要

<事務局>

宇部市環境審議会条例第5条第3項の規定により、本日の会議が成立していることの確認（委員数16名に対し過半数の10名参加。）。

配布資料の確認。

#### 令和7年度刊「宇部市の環境」について

<事務局>

別冊に基づき説明

<委員>

P23掲載の環境指標「民生部門での年間温室ガス排出量」について、基準値である令和2年度数値「533千t-CO<sub>2</sub>」と関係するデータは本文中のどのデータに関連しているか。

<事務局>

P30掲載の表「宇部市の二酸化炭素排出量」の2018年度民生部門排出量である。発表されたのが令和2年度である。

<委員>

P47 掲載の環境指標「自然環境調査への参加件数」について、かなり数字が増えているが、関連した人数は分かるか。

<事務局>

数値は「バイオーム」というアプリケーションの運営会社から提供された数字を用いているが、人数についての数字の提供はなくお答えできない。ただ、市の啓発活動等により、参加人数も増加しているのではないかと考えている。

<委員>

アプリに登録された情報は一元化され見ることができるか。

<事務局>

アプリを利用することで可能である。

<委員>

その情報は宇部市として活用しているか。

<事務局>

現在はなく、今後活用を考えている。

<委員>

参加件数とは何か。

<事務局>

アプリへの投稿件数である。

<委員>

P33 掲載「市施設への再生可能エネルギー設備の導入状況」について、発電規模だけでなく実際の発電量の記載もあれば運用状況が分かりやすい。発電量のデータを把握しているか。

<事務局>

把握していない。

<委員>

データがあると施策の効果が分かりやすいと思う。

<事務局>

データの把握について検討したい。

<委員>

P23 掲載の環境指標「民生部門での年間温室ガス排出量」について、基準値から 10 年後目指そう値は 5 年後目指そう値を経て 30%減少を目指す設定となっているが、令和 6 年度実績値は基準値を上回っている。説明ではコロナ禍の外出自粛により家庭活動が増加したためと推察される想定外のピーク値ということだが、やむを得ない事情による一時的な増加であるので許容しているという理解でよいか。

<事務局>

その理解のとおりである。ただ、来年度は計画の中間見直し時期であり、実態に即した目標再設定も検討したい。

<委員>

P47 掲載の環境指標「自然環境調査への参加件数」について、インターネット経由の参加者とそれ以外の参加者といった項目で分けてはどうか。経年変化も分かりやすくなると思う

<事務局>

対応は可能と思う。中間見直しで検討したい。

#### **環境事故発生及び事前協議受理の推移について**

<事務局>

別紙に基づき説明。

協定値の超過、危険物及び毒劇物が工場敷地外に漏出した事故、並びに報道発表された事故を審議会対象案件とし、それ以外の案件を軽微なものとして取り扱っている。報告案件は令和 3 年度以降減少傾向にある。軽微なものは昨年度から集計を開始したため傾向を分析する程のデータの蓄積がなく今後の推移を見守りたい。

<委員>

企業におかれては、引き続き事故防止に努めていただきたい。

#### **高純度安水工場におけるアンモニア排ガスの漏洩事故について**

<UBE株式会社>

資料 1 に基づき説明

<委員>

配管変更時に圧力変動範囲内で機密検査をしたにも関わらず漏洩が発生したということか。

<UBE株式会社>

そうである。

<委員>

検査時配管内の圧力は大気に対して正圧か負圧か。

<UBE株式会社>

検査時は正圧。

<委員>

アンモニアは劇物と思うが、それを扱う工場が市街地に近い位置に配置されている。人家からなるべく遠い位置に配置する方が好ましいと思うがいかがか。

<UBE株式会社>

好ましいと思う。

<委員>

難しいこととは思うが、今後の再配置の機会などに社内で配慮を検討して欲しい。

<委員>

アンモニアは配送管内で気体か、液体か。

<UBE株式会社>

気体である。

<委員>

気体が負圧で管内配送されていれば漏洩しないと思うが。

<UBE株式会社>

予期しない圧力の変動で接着剤の剥離が発生した。想定外であった。

<委員>

アンモニアは腐食性が高いと思うが、金属管の劣化対策はどう講じているか。

<UBE株式会社>

アンモニアは比較的腐食性が低い。また配管に用いるステンレス鋼は対腐食性が高く腐食対策は講じられていると考える。この対策と別に経年劣化予防の検査は継続する。

<委員>

作業員4名が被災しているが、その近くに勤務していた他の3名に影響はなかったか。

<UBE株式会社>

別に囲われた部屋の中にいたため影響がなかったと思われる。被災した作業員は換気扇の近くで作業しており影響が大きかったと思われる。

<委員>

事故時、換気のため窓を開放しているが、アンモニアガスを施設外に排出すべきでなかったのではないか。

<UBE株式会社>

復旧のためのやむを得ない応急的な措置であった。

<委員>

やむを得なくでも施設外に排出する必要がない措置を考えて欲しい。

<委員>

配管ごとに様々な接合方法があると思うが標準的な基準はあるか。

<UBE株式会社>

基本的に同材質で接合することになっているが、特殊な方法についての定めはない。

<UBE株式会社>

補足として、社内では設備管理規定が定めてありこれに基づき運用がなされているが、例外的な処置については保安管理部門の長が承認を行っている。今回の事故発生場所の承認は問題があったかもしれず、今後検証したい。

<委員>

当該施設はもともと鉄道沿線に存在していたが、鉄道廃止後周辺に住宅が造成されていったという背景があるので工場の再配置については難しい面があると思う。今回の事故を機に作成されたハザードマップも活用し、今後も事故防止に努めて欲しい。

(事務局付記：1970年までには居能駅から旧宇部アンモニア工業までの線路が廃止されたと思われる。)

### 事務局より

<事務局>

環境事故報告件数が減少傾向にあり、企業の皆様への安全管理への御尽力に感謝申し上げます。工場施設の経年変化への対応や、技術と経験の継承など課題は多いと思うが引き続き安全な操業をお願いしたい。

了